

【資料 2】

神戸市食育推進計画（第4次）の モニタリング指標の現状値

神戸市食育推進計画（第4次）のモニタリング指標の現状値

【資料2】

項目	策定時 (R3)	現状値 (R7)	データソース	
I. 健康なからだと豊かなところをつくる食育の推進				
朝食欠食者の割合※	小学5年生	5.5%	6.2%	神戸市学力・学習状況調査 (R1・R7)
	中学2年生	7.6%	9.2%	
	20歳代男性	24%	27.4%	市民の食育に関するアンケート (R2) 健康とくらしの調査 (R5)
	20歳代女性	24.8%	23.6%	
	30歳代男性	24.4%	23.3%	
	30歳代女性	12.8%	16.6%	
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を 1日2回以上ほぼ毎日食べている 若い世代の割合※	20歳代男性	32.9%	44.1%	市民の食育に関するアンケート (R2) 健康とくらしの調査 (R5)
	20歳代女性	24.2%	39.3%	
	30歳代男性	44.2%	42.4%	
	30歳代女性	34.3%	42.9%	
ゆっくりよくかんで食べる人の割合※	39.5%	41.7%	健康とくらしの調査 (H30・R5)	
「保育所における食事の提供ガイドラインに基づくチェック リスト」を活用する施設の割合	81.8%	82.2%	所管課データ(R2・R6)	
「家族と友人と食卓を囲む」ことに取り組む人の割合	45.6%	—	市民の食育に関するアンケート (R1)	
自分が出す食品ロスを減らしたい人の割合 (うち強く減らしたい人の割合)	79.4% (40.9%)	71.9% (不明)	ネットモニターアンケート (R2・R7)	

※…国の食育推進基本計画（第4次）で類似の目標ものがあるもの

神戸市食育推進計画（第4次）のモニタリング指標の現状値

【資料2】

項目	策定時 (R3)	現状値 (R7)	データソース
II. こうべの自然の恵みと食文化を伝える食育の推進			
ローカルフードへのアクセス機会と参加者数	250回、 9.7万人/年間	470回、 26万人/年間	所管課データ(R2・R6)
「農」に関する体験、活動を行う市民	5.8万人/年間	10万人/年間	
地域食材の利用を意識している 市民・事業者の割合	33%	69%	アンケート調査 (H26・R6)
III. 食の安全・安心の確保			
「食品の安全性への理解」を深めることに 取り組む人の割合※	44.5%	—	市民の食育に関するアンケート (R1)
こうべ版GAPの取り組み農家数	460人	—	所管課データ(R2)
家に食料・飲料備蓄をしている 人の割合	食料	52.5%	市民の食育に関するアンケート (R1)
	飲料	61.9%	
IV. 食育推進運動と連携・協力体制の強化			
食育に関心を持っている人の割合※	67.5%	—	市民の食育に関するアンケート (R1)
神戸市で開催された食育の取組に 参加したことがある人の割合	—	—	—

※…国の食育推進基本計画（第4次）で類似の目標ものがあるもの

(参考) 第4次食育推進基本計画の目標

【資料2】

目標			
具体的な目標値	第4次基本計画作成時の値 (令和2(2020)年度)	現状値 (令和6(2024)年度)	目標値 (令和7(2025)年度)
1 食育に関心を持っている国民を増やす			
① 食育に関心を持っている国民の割合	83.2%	80.8%	90%以上
2 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数を増やす			
② 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	週9.6回	週8.9回	週11回以上
3 地域等で共食したいと思う人が共食する割合を増やす			
③ 地域等で共食したいと思う人が共食する割合	70.7%	64.6%	75%以上
4 朝食を欠食する国民を減らす			
④ 朝食を欠食する子供の割合	4.6% (令和元(2019)年度)	6.3%	0%
⑤ 朝食を欠食する若い世代の割合	21.5%	29.6%	15%以下
5 学校給食における地場産物を活用した取組等を増やす			
⑥ 栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数	月9.1回 (令和元(2019)年度)	13.1回	月12回以上
⑦ 学校給食における地場産物を使用する割合(金額ベース)を現状値(令和元(2019)年度)から維持・向上した都道府県の割合	-	70.2%	90%以上
⑧ 学校給食における国産食材を使用する割合(金額ベース)を現状値(令和元(2019)年度)から維持・向上した都道府県の割合	-	83.0%	90%以上
6 栄養バランスに配慮した食生活を実践する国民を増やす			
⑨ 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている国民の割合	36.4%	36.8%	50%以上
⑩ 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合	27.4%	23.3%	40%以上
⑪ 1日当たりの食塩摂取量の平均値	10.1g (令和元(2019)年度)	9.8g (令和5(2023)年度)	8g以下
⑫ 1日当たりの野菜摂取量の平均値	280.5g (令和元(2019)年度)	256.0g (令和5(2023)年度)	350g以上
⑬ 1日当たりの果物摂取量100g未満の者の割合	61.6% (令和元(2019)年度)	63.4% (令和5(2023)年度)	30%以下
7 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する国民を増やす			
⑭ 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する国民の割合	64.3%	63.7%	75%以上

目標			
具体的な目標値	第4次基本計画作成時の値 (令和2(2020)年度)	現状値 (令和6(2024)年度)	目標値 (令和7(2025)年度)
8 ゆっくりよく噛んで食べる国民を増やす			
⑮ ゆっくりよく噛んで食べる国民の割合	47.3%	47.7%	55%以上
9 食育の推進に関わるボランティアの数を増やす			
⑯ 食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している国民の数	36.2万人 (令和元(2019)年度)	30.5万人 (令和5(2023)年度)	37万人以上
10 農林漁業体験を経験した国民を増やす			
⑰ 農林漁業体験を経験した国民(世帯)の割合	65.7%	57.0%	70%以上
11 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民を増やす			
⑱ 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ国民の割合	73.5%	67.5%	80%以上
12 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民を増やす			
⑲ 環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ国民の割合	67.1%	61.3%	75%以上
13 食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民を増やす			
⑳ 食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民の割合	76.5% (令和元(2019)年度)	74.9%	80%以上
14 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民を増やす			
㉑ 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民の割合	50.4%	44.8%	55%以上
㉒ 郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている国民の割合	44.6%	56.1%	50%以上
15 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民を増やす			
㉓ 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民の割合	75.2%	74.8%	80%以上
16 推進計画を作成・実施している市町村を増やす			
㉔ 推進計画を作成・実施している市町村の割合	87.5% (令和元(2019)年度)	91.2%	100%

資料：①～③、⑤、⑥、⑩、⑭、⑮、⑰～⑲、㉑～㉓ 「食育に関する意識調査」(農林水産省)
 ④ 「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)
 ⑥ 「学校における地場産物に係る食に関する指導の取組状況調査」(文部科学省)
 ⑦、⑧ 「学校給食における地場産物・国産食材の使用状況調査」(文部科学省)
 ⑪～⑬ 「国民健康・栄養調査」(厚生労働省)
 ⑭、⑯ 農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課調べ
 ㉑ 令和元(2019)年度の値は「令和元年度消費者の意識に関する調査結果報告書-食品ロスの認知度と取組状況等に関する調査-」(消費者庁)、令和6(2024)年度の値は「令和6年度第2回消費生活意識調査」(消費者庁)
 注：1) 青色で塗りつぶしている目標は、達成済みのもの
 2) 「6 栄養バランスに配慮した食生活を実践する国民を増やす」の食育ビクトグラム「太りすぎない やせすぎない」は、⑭の目標値に対応

※農林水産省 令和7年度第3回 食育推進評価専門委員会の資料より抜粋